

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 家庭科 科目 家庭基礎

教科： 家庭科 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第2学年 A組

教科担当者： (A組) 蛭田 美香

使用教科書： (家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍)

使用教材： (教科書・ワークシート・視聴覚教材)

教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参加証とするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	・生涯発達とライフステージ ・青年期の課題	・各ライフステージごとの発達段階について理解し、それぞれの発達段階で起こり得るライフイベントと関連させて理解することができる。 ・4つの自立について理解し、自分らしさは一人一人異なること理解できる。 ・自分自身の生活を見つめ、自立にむけて課題を発見し、将来の発達段階ともかかわらせ自分の将来について思考・判断することができる。	○	○	○	4
	私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。また用途にあった着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。	・被服の起源 ・被服の保健衛生的機能 ・被服の社会的機能	・被服が着用されるようになった説について、その背景や風土などを考えながら理解できる。 ・自然環境と被服のかかわり、社会環境と被服の関係から、被服が持つ機能を理解することができる。	○			4
	被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	・被服の材料 ・被服材料の性能 ・被服材料の性能の改善 ・被服の入手 ・被服と表示	・繊維の種類と特徴と用途が理解できる。 ・織物・編物の種類と構造が理解できる。 ・被服材料の保温性や通気性などさまざまな特徴を知り、どのような素材がどのような性質を持つのかわかる。 ・繊維の改質や加工により付加価値が付き、現在の私たちの生活に浸透していることが理解できる。 ・実生活において、被服の入手から処分まで計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 ・被服を購入する際の表示の見方、洗濯する際の表示の見方がわかる。 ・被服の購入の際、自分のサイズを把握し、表示から必要な情報を読み取ることができる。	○	○	○	10
	基礎的な縫製技術を身につけ、衣服の簡単な修繕ができるようにする。	・玉どめ、玉結びの練習 ・並縫い、半返し縫い、本返し縫い ・かがり縫い、まつり縫いなどの練習 ・ボタン、スナップつけの練習	・並縫い、返し縫い、かがり縫い、まつり縫いなどそれぞれの縫い方の特徴を理解している。 ・並縫い、返し縫い、かがり縫い、まつり縫いなどが、丈夫できれいにできる。 ・ボタンの種類に応じて、丈夫できれいにボタンをつけることができる。 ・手縫いに関心を持ち、衣服の修繕ができるよう意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	・被服の手入れ ・洗剤と漂白剤の働き ・仕上げ、保管	・湿式洗濯・乾式洗濯などの洗濯の種類や、洗剤のはたらきについて理解できる。 ・すでに学んだ被服の表示の見方、洗濯の表示の知識を活かし、適切な洗濯や手入れができる。 ・被服材料・被服管理・整理について基礎的な知識を身につけ、被服管理において適切な判断ができる。	○		○	2

